

## 本学図書館のちりめん本コレクション

本学図書館でちりめん（縮緬）本が収集され始めたのは、昭和40年代の後半からでした。時の図書館長で12年間にわたって蔵書構成の構築に努めていた森田嘉一現本学理事長・総長が、この書物の持つ対外交渉史料とヨーロッパ言語による日本研究資料としての価値の高さに着目して、積極的な蓄積が進みました。

当時、国内は高度経済成長を遂げている最中で、出版界では新刊書籍が次々と発行され、出版大国としての様相が急速に高まっていました。その反面、世間ではちりめん本という書物の名前はよく知られておらず、納品してくれる古書店さえ少ない状況でした。

しかし、この頃は明治元（1868）年から数えて百年を経過した時期でもあり、書誌学界はもとより古書の販売業界でも日本の古い書物を研究する動きが盛んになってきました。明治期に作られたちりめん本についても研究が進み、和紙に縮緬状の特殊加工を施して高級和本を拵える過程や伝承文学の翻訳に著名な外国人が携わっていたこと、また英語以外の外国語にも訳されて明治期の対外発信へ繋がっていたことなど、日本人が忘れかけていたこの書物の刊行体系が次第に明らかにされてきています。

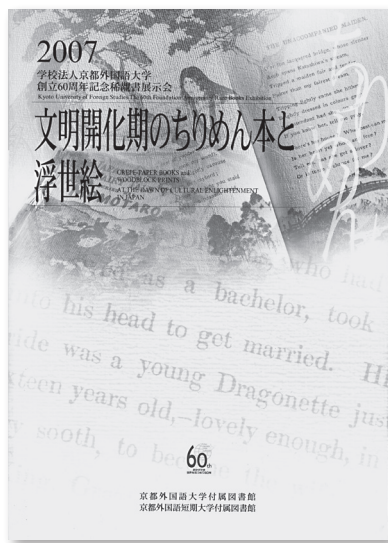
また、訪日した外国人の視点も古書としてのちりめん本人気の向上を加速させたものと考えられます。この価値をいち早く把握した彼らの中には、日本に滞在して収集したちりめん本を日本国内で販売する外国人も現れました。

さらには、ちりめん状の和紙を復元させた伝統工芸家もあり、この書物の芸術的価値が認められるようになりました。

現在は民俗学や児童文学史、あるいは美術史

の研究資料としてちりめん本を強力に収集する大学図書館も出はじめ、収集は大きな拡がりをみせています。

本学では、平成十九（2007）年に学校法人が創立60周年を迎えたことを記念した稀覯書展示会「文明開化期のちりめん本と浮世絵」が開催され、写真の豊富な図録形態で末尾に所蔵目録を記載した全165頁から成る展示目録（写真）を刊行しました。この展示会には本学図書館所蔵のちりめん本約150冊が出展され、来場された方々に美しい書物の姿や内容をご覧いただき、織物の縮緬を由来とする名称を確認してもらいました。



『文明開化期のちりめん本と浮世絵』

その後、この所蔵目録はデジタル化して公開されたことから、学外からも研究者が調査研究に訪れることが多くなり、本学図書館は「ちりめん本資料館」としての役割も果たすようになったのです。

（楸）